

第69期決算説明資料

(2021/4/1～2022/3/31)

代表取締役社長 鷹野 準



タカノ株式会社

2022年6月3日

2022年3月期実績および 2023年3月期見込みについて

（ご注意）

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更しておりますので、前年比につきましては、変更後の算定方法により作成した数値との比較となっております。

2022年3月期決算（連結） 実績の内容について

●当社および連結子会社の概要について

会社名	沿革等	事業の内容
※当社 タカノ株式会社	1953年7月 ばね製造会社として設立 1997年東証上場	・ オフィス家具、ユニット（ばね）製品、エクステリア製品、 画像処理検査装置、電磁アクチュエータ、健康福祉関連機器 の製造販売
※連結子会社 (株)ニッコー [機械・工具]	1968年3月 グループ内の工具機械等の仕入を する商社機能として設立	・ 工具、器具、機械、エクステリア製品の仕入販売
※連結子会社 タカノ機械(株) [検査計測機器]	1979年9月 当社治工具・専用機の設計製造 部門を分離独立させ設立。	・ 省力化機械の製造販売 ・ 検査計測装置のメカ機械等の製作
※連結子会社 台湾鷹野股份有限公司 [検査計測機器]	2005年2月 当社100%子会社として設立、 同年4月より営業を開始	・ 台湾におけるFPD向け画像処理検査装置のメンテナンス、ア フターサービス、販売活動
※連結子会社 上海鷹野商貿有限公司 [住生活関連機器]	2010年1月 当社100%子会社として設立 2013年12月 資本金を50万米ドルに増資	・ オフィス家具他、各種製品の仕入販売 （当社各部門の中国市場向けの製品の販売活動等、中国から の部材仕入れ活動等を行う目的で設立）
※連結子会社 香港鷹野國際有限公司 [産業機器]	2011年8月 当社100%子会社として設立（登記） 2012年4月（営業本格開始）	・ 産業機器（電磁アクチュエータ）製品、検査計測機器製品お よびそれぞれの製品にかかる部品等の仕入・販売（輸出入）
※連結子会社 Takano of America Inc. [産業機器]	2019年8月 当社100%子会社として設立（登記） 2020年4月（営業本格開始）	・ 産業機器（電磁アクチュエータ）製品の仕入・販売

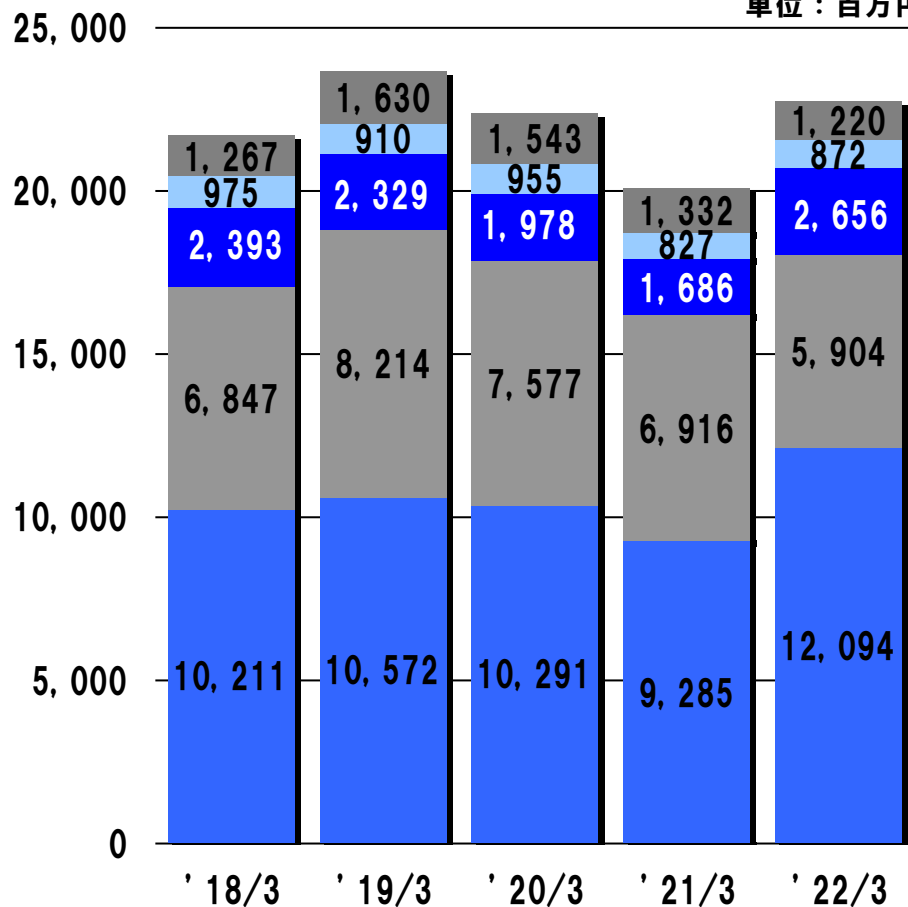
●2022年3月期連結決算実績 (対前期比)

	2021年3月 (百万円)	2022年3月 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	20,050	22,748	113.5%
営業利益	△97	1,143	—%
経常利益	147	1,237	838.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	△11	894	—%

●セグメント別売上高の推移

セグメント別売上高の推移

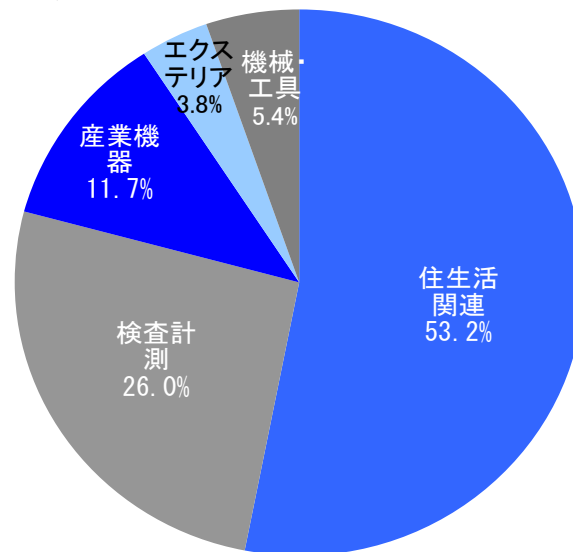
単位：百万円



■ 住生活関連 ■ 検査計測 ■ 産業機器 ■ エクステリア ■ 機械・工具

	2021/3 (百万円)	2022/3 (百万円)	前年 同期比
住生活関連	9,285	12,094	130.2%
検査計測	6,916	5,904	85.4%
産業機器	1,686	2,656	157.5%
エクステリア	827	872	105.4%
機械・工具	1,332	1,220	91.6%
合計	20,050	22,748	113.5%

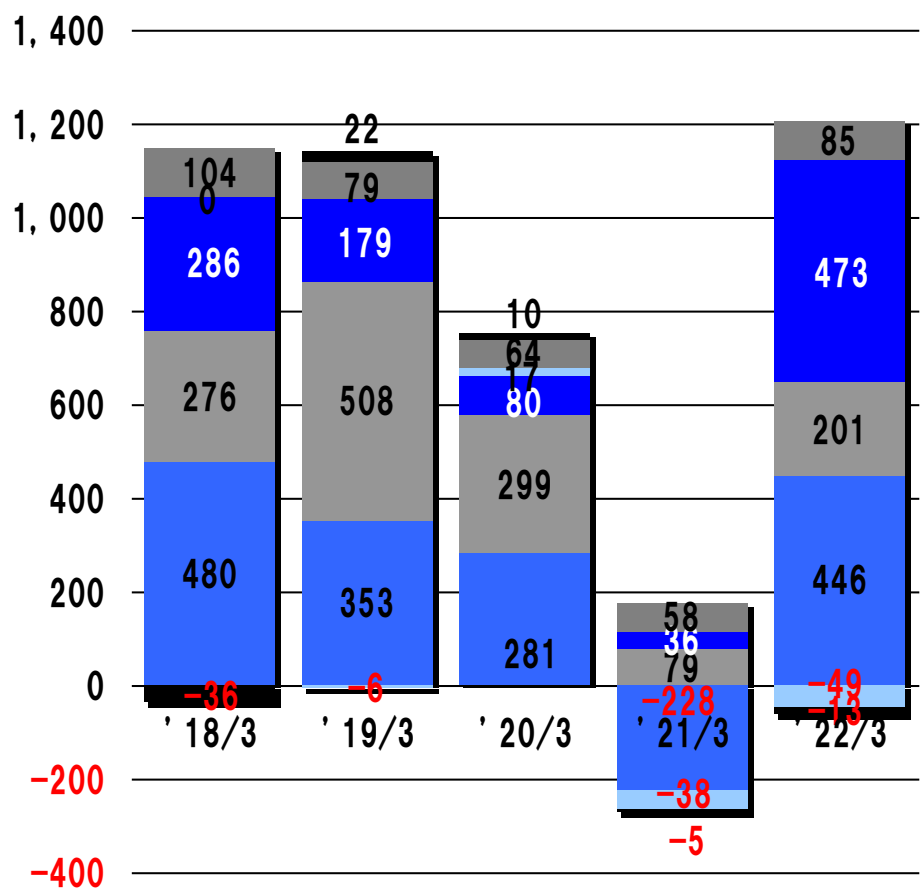
2022/3連結売上高構成比



●セグメント利益の推移

セグメント利益の推移

単位：百万円



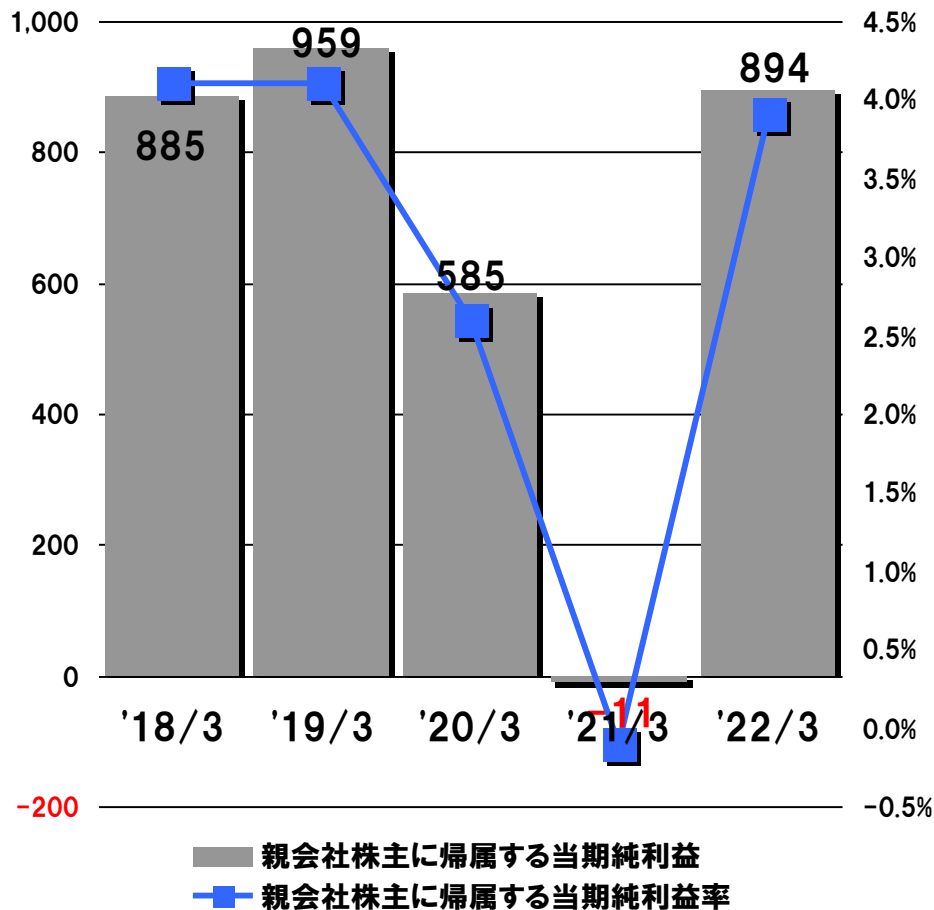
■ 住生活関連 ■ 検査計測 ■ 産業機器 ■ エクステリア ■ 機械・工具 ■ 取引消去

	2021/3 (百万円)	2022/3 (百万円)	前年 同期比
住生活関連	△228	446	—%
検査計測	79	201	253. 8%
産業機器	36	473	1, 299. 7%
エクステリア	△38	△49	—%
機械・工具	58	85	145. 3%
取引消去	△5	△13	—%
合計	△97	1, 143	—%

●親会社株主に帰属する当期純利益の推移(連結)

親会社株主に帰属する当期純利益/率

単位:百万円

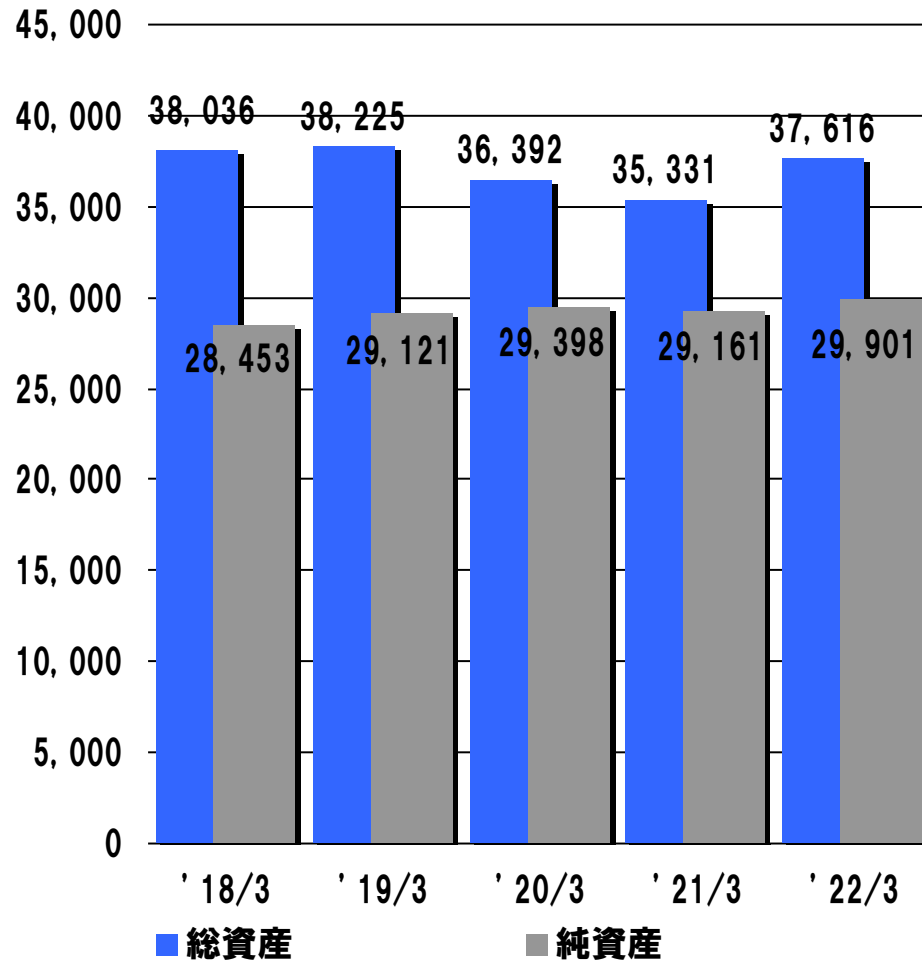


○2022年3月期の1株当たり純利益
58円84銭

●総資産・純資産の推移(連結)

総資産/純資産

単位：百万円

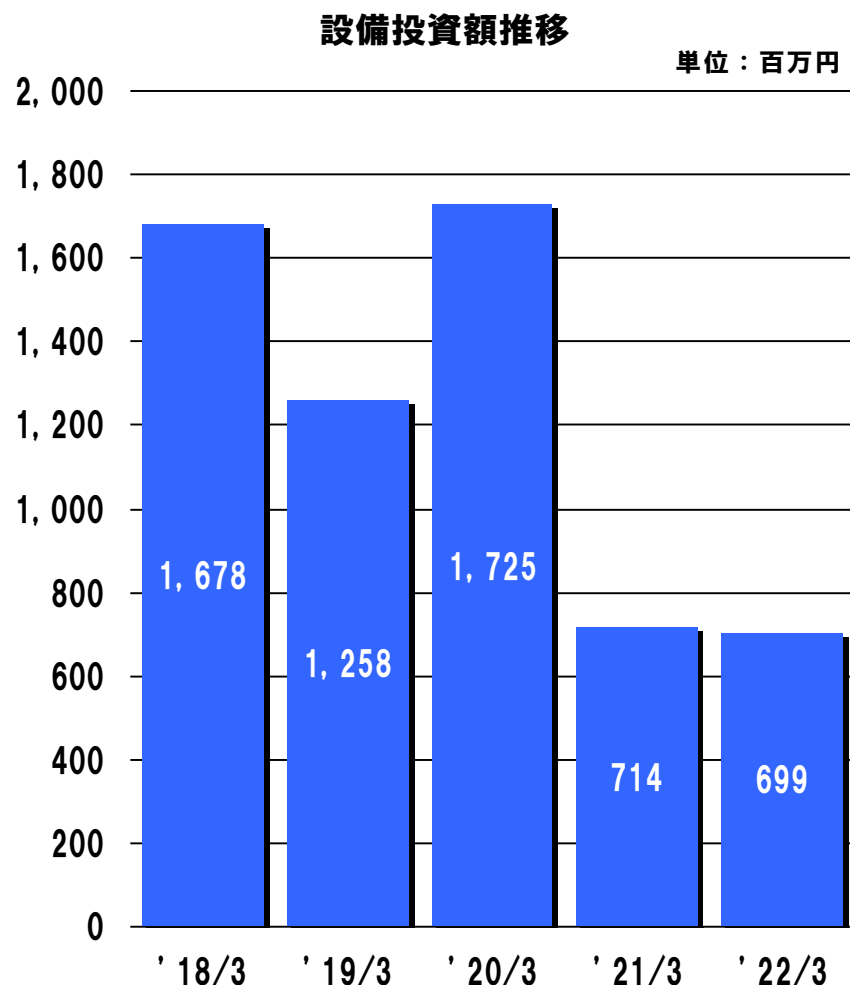


○2022年3月期の自己資本比率 79.5%

○2022年3月期の自己資本利益率 3.0%

○2022年3月期末の1株当たり純資産
1,964円39銭

● 主な設備投資内容・設備投資額推移



	2021/3 (百万円)	2022/3 (百万円)	前年 同期比
住生活関連	423	306	72.4%
検査計測	158	156	98.6%
産業機器	92	171	184.8%
エクステリア	42	74	174.4%
機械・工具	11	1	13.1%
調整額	△13	△10	—%
合計	714	699	97.8%

● 当期の主な設備投資の内容

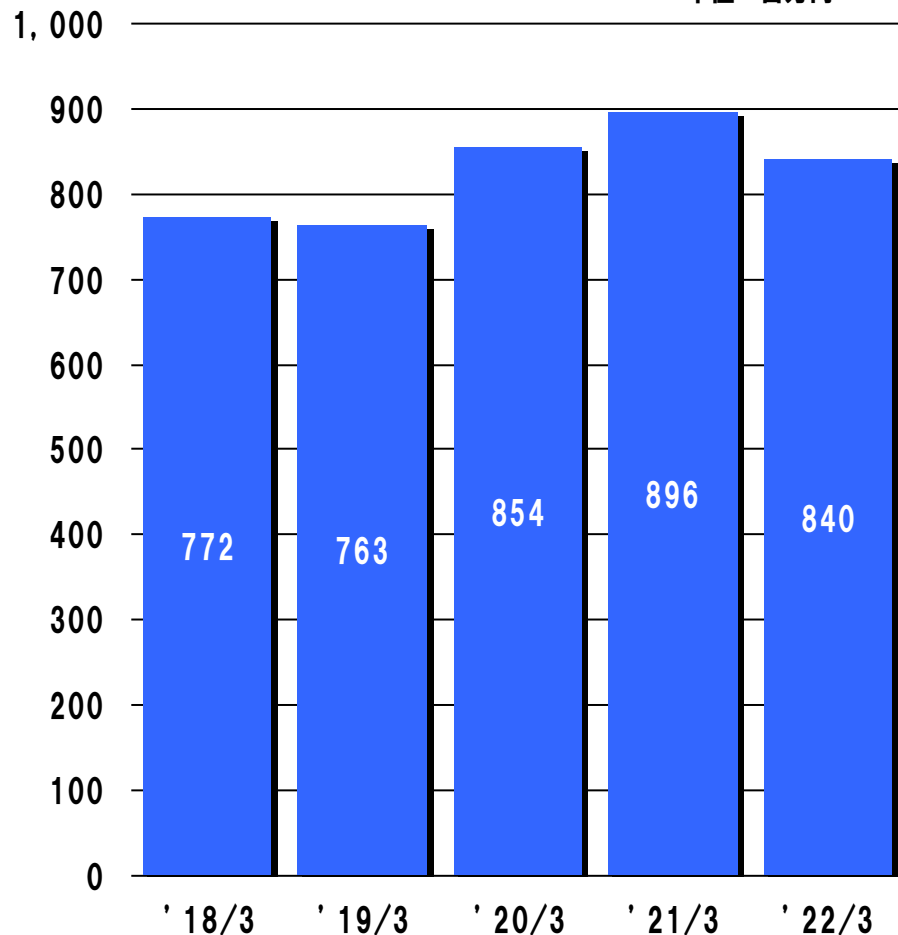
- 産業機器
 - ・生産能力増強投資：旋盤等の機械装置
- 住生活関連機器
 - ・合理化・省力化：製造設備更新投資
- エクステリア
 - ・馬住工場の大型倉庫建設

※設備投資額は有形＋無形固定資産の設備投資に係るものであります。

● 主な研究開発内容・研究開発費推移

研究開発費推移

単位：百万円



●当期のセグメント別研究開発費の内訳

単位：百万円

住生活関連	107
検査計測	714
産業機器	18
エクステリア	0
合 計	840

●当期の主な研究開発の内容

■住生活関連機器

- ・環境対応 新素材研究等

■検査計測機器

- ・高速・高分解能新型カメラおよび画像処理装置開発他
- ・AIによる欠陥分類研究

■新事業開発関係

- ・体外診断用医薬品および診断装置開発
- ・医療関連機器開発

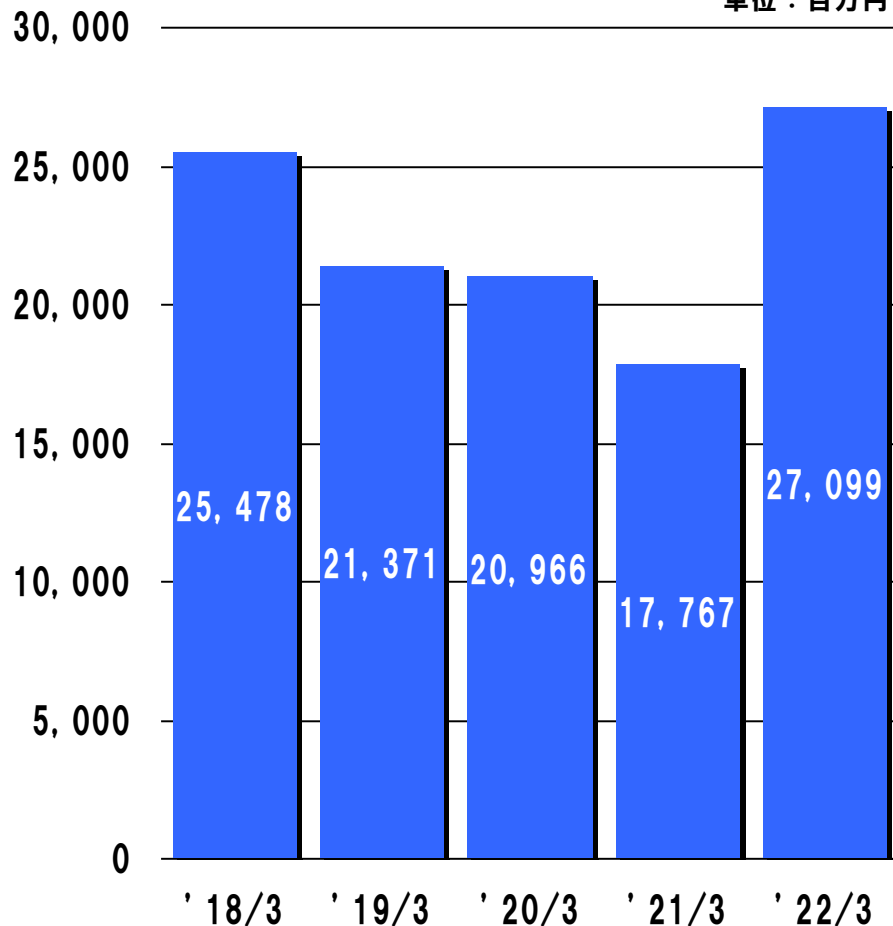
●2022年3月期連結キャッシュフロー計算書

	2021年3月 (百万円)	2022年3月 (百万円)	前年比増減 (百万円)	備考
営業活動によるCF	1, 526	670	△855	
投資活動によるCF	△731	△896	△164	
財務活動によるCF	△394	△133	261	
現金等換算差額	1	84	82	
現金等の増減額	401	△275	△676	
現金等期首残高	7, 348	7, 749	401	
現金等期末残高	7, 749	7, 474	△275	

●受注高・受注残高の状況（連結）

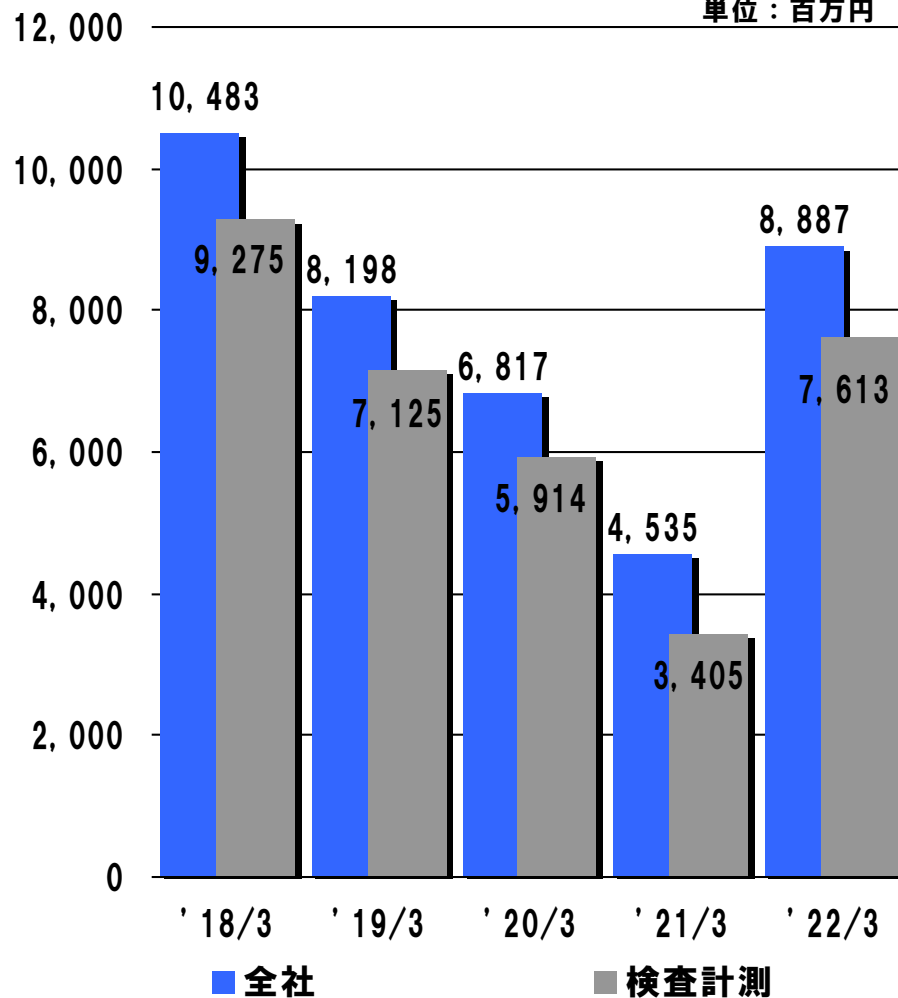
受注高の推移

単位：百万円



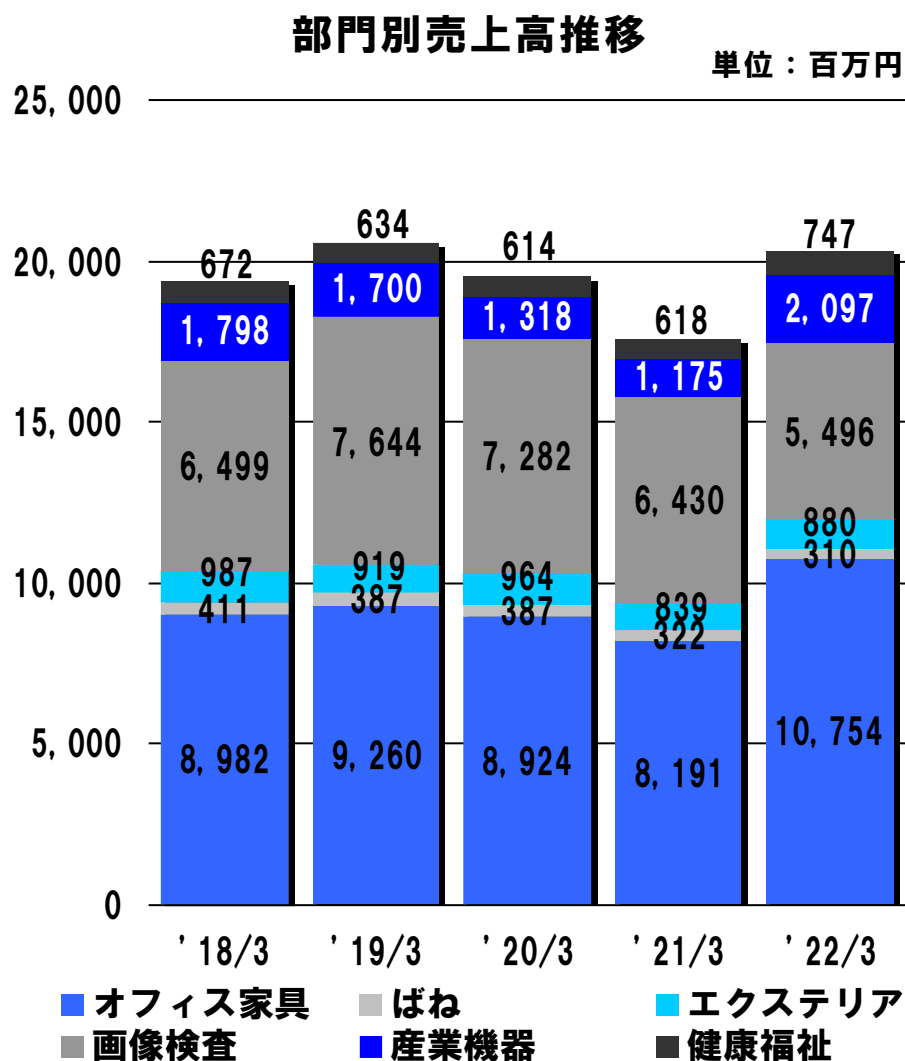
期末受注残高推移

単位：百万円



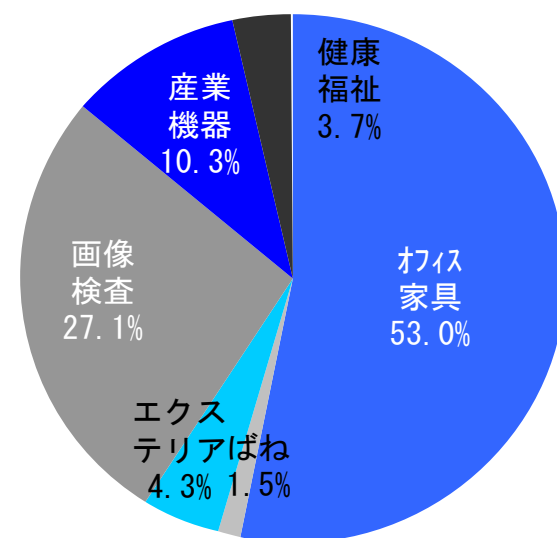
**2022年3月期決算（単独）
部門別売上高実績の内容について**

●部門別売上高(単独)の推移



	2021/3 (百万円)	2022/3 (百万円)	前年 同期比
オフィス家具	8,191	10,754	131.3%
ばね	322	310	96.2%
エクステリア	839	880	104.9%
画像検査	6,430	5,496	85.5%
産業機器	1,175	2,097	178.5%
健康福祉	618	747	120.8%

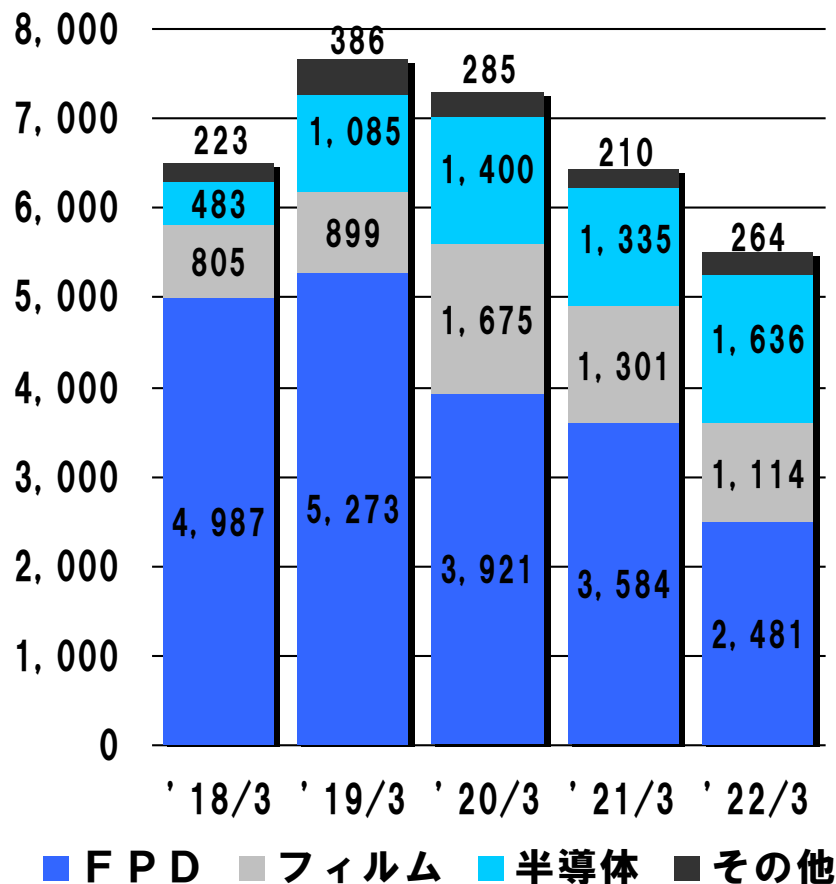
2022/3売上構成比



●検査計測装置売上高の推移

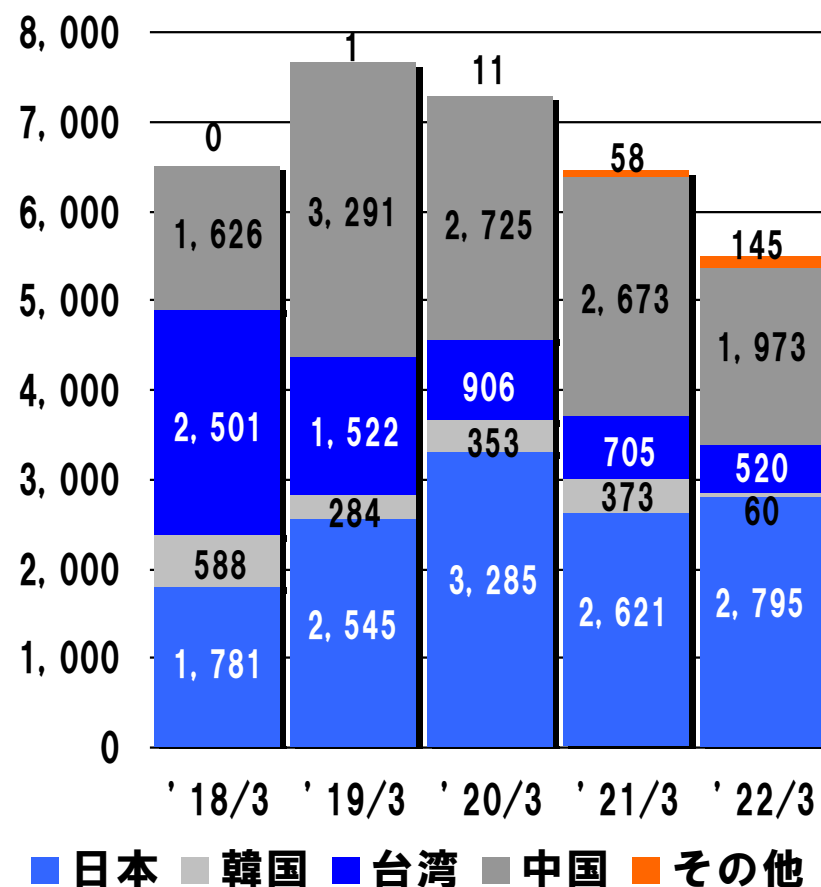
検査計測装置品目別売上高推移

単位：百万円



検査計測装置地域別売上高推移

単位：百万円



2023年3月期決算（連結）の見通しについて

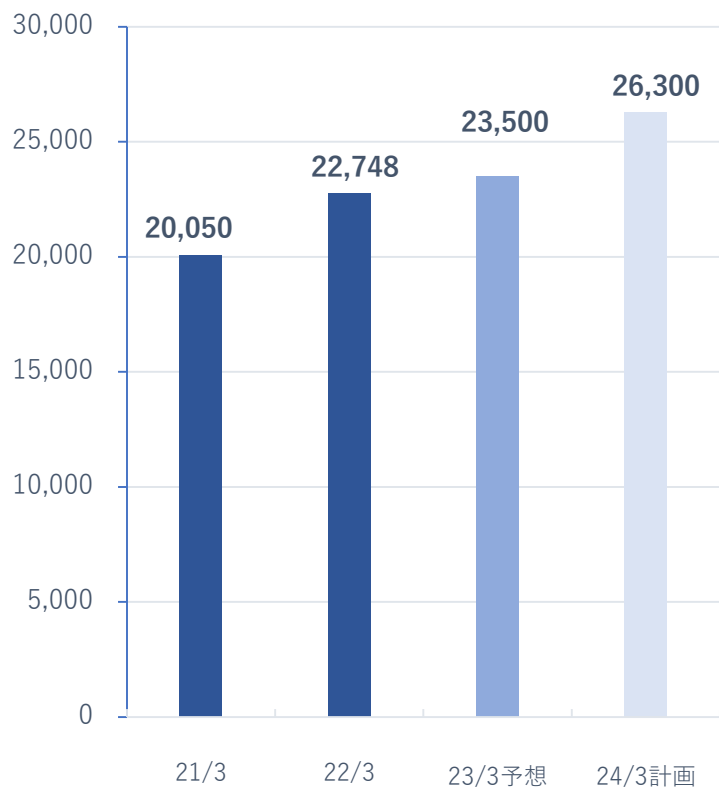
●2023年3月期決算（連結）見通し

	2023年3月予想 (百万円)	前年同期比 (%)	2022年3月実績 (百万円)
売上高	23, 500	103. 3	22, 748
営業利益	1, 100	96. 2	1, 143
経常利益	1, 150	92. 9	1, 237
親会社株主に帰属 する当期純利益	850	95. 0	894

● 中期経営計画「ONE TAKANO」との比較

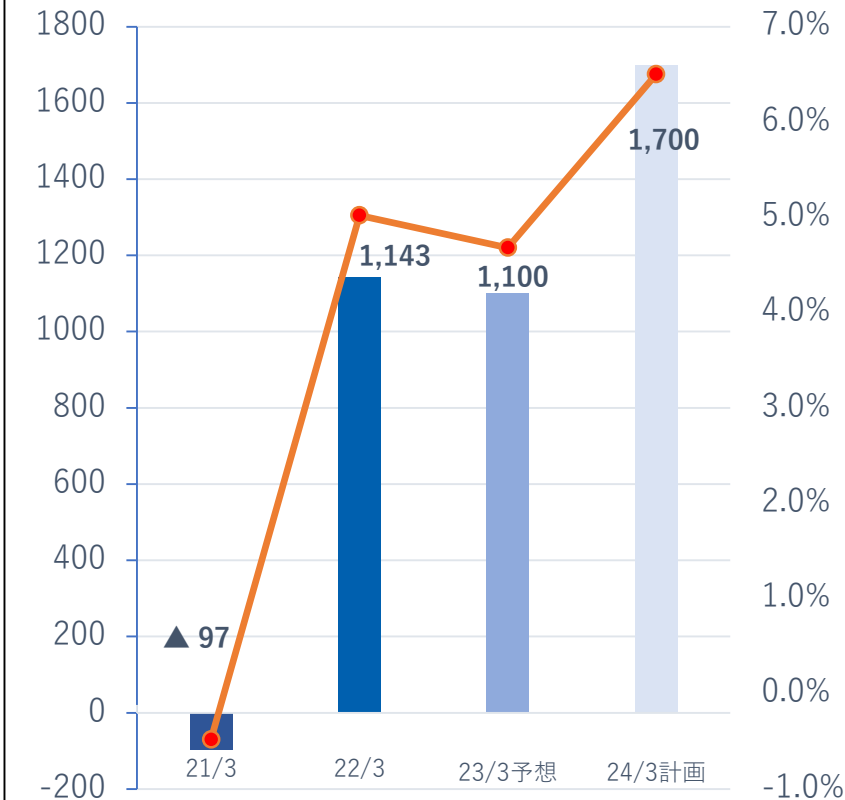
売上高

単位：百万円



営業利益（率）

単位：百万円



※この説明資料は、投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関する最終決定はみなさまご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

※当説明資料で掲載している情報のうち過去の歴史的事実以外のものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また2022年6月3日現在で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断に基づいております。従って、将来に関する予想には様々な潜在的リスクや不確定要素が内在されており、実際の業績は種々の要素によりこれらの将来予想とは異なる場合があります。当社はこの資料を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※従いまして、この資料にある将来に関する予想に全面的に依存して投資等の判断を行うことはお差し控えください。

2022年3月期 4Q(单独) 検査計測部門 決算報告

部門長 鷹野 雅央

本資料は、検査計測部門の業績及び今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであります。

本資料で開示されているデータは、発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。本資料で述べられている予測や見通しには、不確実性が含まれていることをご承知おきください。

財務数値は、管理会計における部門単独での数値であり、連結会計とは異なるものであります。

1. 部門紹介
2. 前期(2022年3月期)振り返り
3. 今期(2023年3月期)方針
4. トピックス

1. 部門紹介

2. 前期(2022年3月期)振り返り

3. 今期(2023年3月期)方針

4. トピックス

検査計測部門 (検査装置事業)

- ・ 1987年、画像処理装置第1号機を完成
- ・ 信州南平工場(FPD等)、函館事業所(Film)
その他 営業拠点等(国内外：全9拠点)



フラット・パネル・ディスプレイ事業

色ムラ、欠陥等を高精細に検出できる液晶検査装置

テレビやスマートフォン用の液晶パネル製造工程でパターン付き基板の自動検査・欠陥判定をし、量産の品質工程管理を行う装置

参入市場：LCD(液晶ディスプレイ)、
PDP(プラズマディスプレイ)、OLED(有機ELディスプレイ)



**高精細外観
検査装置**
(カラーフィルター
等)



ムラ検査装置



フィルム事業

ラインセンサーを用いた光学式のフィルム検査装置

高性能カメラによる高速検査が可能 新規画像処理ユニットを搭載し、高速画像転送とAI欠陥分類により、生産ラインの品質向上を実現する

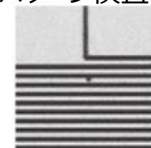
参入市場：光学フィルム・電子部材・
Energy・医療用フィルム



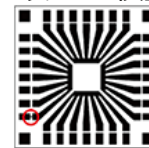
Hawk eyes



パターン検査



パッケージ検査



半導体・電子デバイス事業

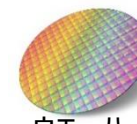
ウェーハの異物や欠陥を高速、高精度に検出できる半導体検査装置

- Vi** — ウェーハの配線パターンやクラック、異物混入などの製品外観を高速、高精度に検査
- WM** — ベアウェーハ表面のパーティクルを高感度に検出
- ALTAX** — ウェーハやBGAなどのパッケージ基板上に形成されたバンプの高さ、径、コプラナティを高速かつ高精度に測定

CIS



ウェーハ



Viシリーズ



WMシリーズ



ALTAX



1. 部門紹介
- 2. 前期(2022年3月期)振り返り**
3. 今期(2023年3月期)方針
4. トピックス

売上減だが部門利益率の改善

- 売上高は前年比86%と減少。フラット・パネル・ディスプレイの市場規模低迷が主要因
- 部門利益は前年比199%と増益を達成。
 (要因) 利益率の高い半導体事業の売上が拡大
 その他、のれん償却を前年に全額費用計上したため2022年3月期は半導体の比例費が軽くなった

単位：百万円	2021年3月期 (実績)	2022年3月期 (実績)	増減額	前年比
売上高	6,431	5,497	△934	85.5%
部門利益	73	145	72	198.6%

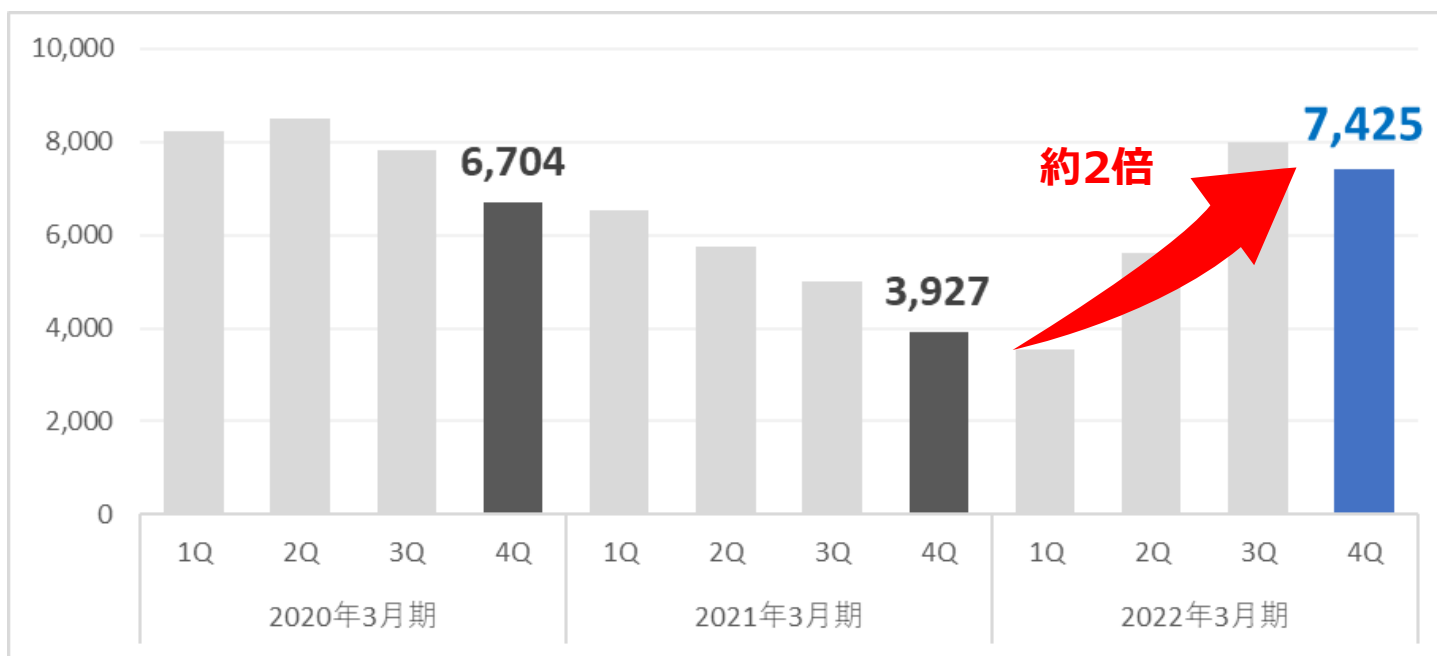
半導体市場を中心にプラス成長が続く

COVID-19のパンデミックを契機としたデジタル化、それに伴うインフラ整備の加速などにより、半導体市場を中心に市況が好転しつつあるが、半導体不足や電子部材などの調達難は大きな懸案に発展している。

事業	マーケット状況 過去 現在	補足説明
フラット・パネル・ディスプレイ	 曇時々晴れ → 曇	● 巣ごもり需要によるパネル価格上昇も2021年夏をピークに急落 スマホ需要も一服感 + 半導体不足の影響により鈍化傾向 ● ニューノーマルの確立による新しいテクノロジーの需要増加に期待 (MicroLED Display パイロットライン向け検査機 受注)
フィルム	 雨 → 晴れ	● 半導体の成長に牽引され、フィルムメーカーの投資意欲が旺盛 ● リチウムイオン電池は、電気自動車向けが好調で15～20%の成長予測 (国内のLIB基材メーカーからの引合い増加傾向) ● 光学系フィルムはTVパネル価格の下落影響に注視
半導体	 晴れ → 晴れ	● IT (5G/IoT/データセンタ) 、車載 (EV/自動運転) の需要急増 ● 半導体市場規模は続伸の見通し 2021年実勢：前年比 26%増 2022年予測：9%成長 出所：世界半導体市場統計 (WSTS)

コロナウィルスの影響を乗り越え2022年3月期は好調な受注を達成

受注残高の推移 単位:百万円



受注残高の計算式：前期末の受注残高＋今期の受注高－今期の売上高

収穫

受注残高(前年比)

+ 89.0%

2021年3月期はコロナウィルスの影響を受け、受注が減少したが、2022年3月期は半導体の需要拡大に牽引され、各社投資意欲の回復がみられ目標を上回る受注を達成

限界利益率(前年比)

+ 5.5%

半導体の急速な市場拡大に伴い、付加価値の高い半導体検査装置が利益に貢献。

課題

FPD事業売上(前年比)

▲ 10.2%

当部門の主力商品であるフラット・パネル・ディスプレイ事業の売上が減少。
LCDからOLEDへの移行は小型パネルから進行しており、今後は大型パネルへの展開が期待される。また、MicroLED市場も狙っていく。

※FPDはフラット・パネル・ディスプレイの略。

1. 部門紹介
2. 前期(2022年3月期)振り返り
- 3. 今期(2023年3月期)方針**
4. トピックス

事業ポートフォリオの基本方針に基づき管理を行っていく

高付加価値の製品へ
売上構造をシフト



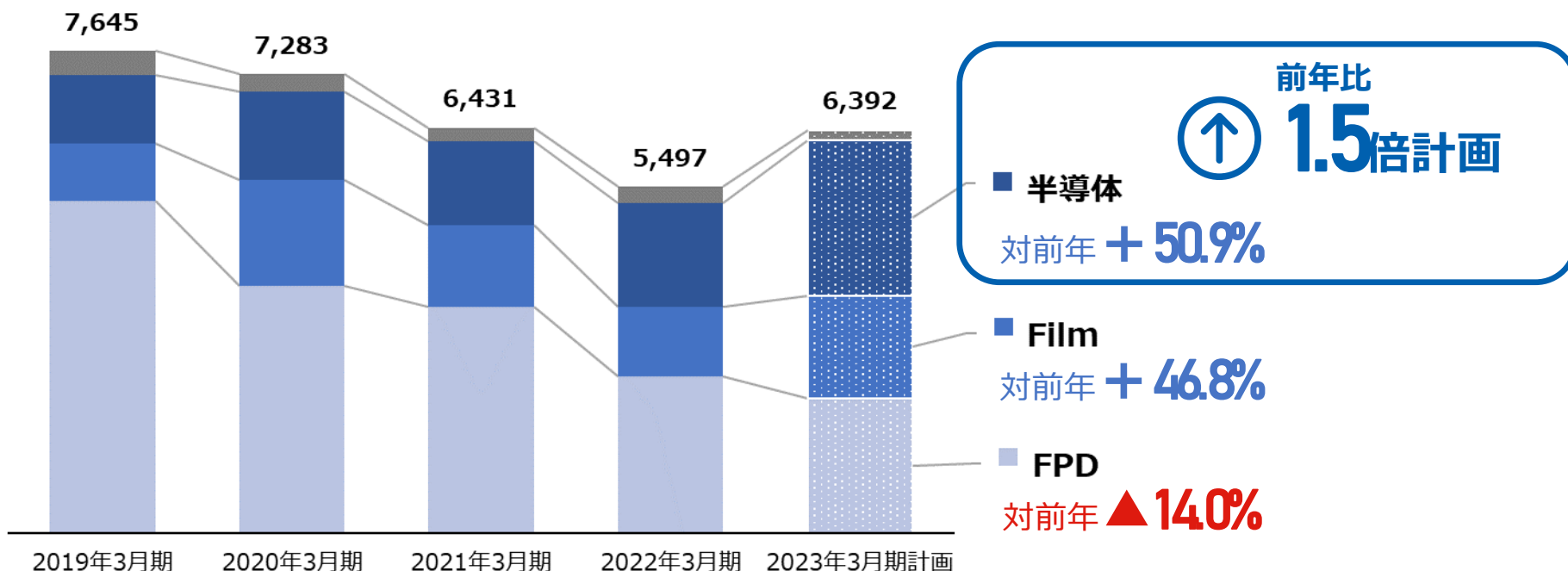
高付加価値の半導体製品の売上を伸ばし、売上構成をシフトしていく

市場の伸びに牽引されて、半導体事業が好調。

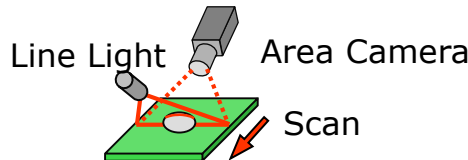
2023年3月期は、半導体事業で前年比売上1.5倍を目指す。

売上高推移・計画

(単位：百万円)



半導体・電子デバイス向け装置のラインナップ

当社商品のラインナップ	製品名	製品説明	参入市場
1. WM ウェーハ表面異物検査装置	 WM-10	● 300mmウェーハの標準モデル ● 48nmの高感度検査システム	CMOS image sensor, POWER device, Bare-wafer, Filmed-wafer, RF filter, BUMP, MEMS
	 WM-7S/7SG	● ウェーハサイズが200mm未満の最も妥当な高性能モデル ● WM-7SGは透明ウェーハを検査可能	
2. Vi ウェーハ外観検査装置	 Vi-4202R Vi-4304C	ウェーハの配線パターンやクラック、異物混入などの製品外観を高速、高精度に検査 ● ウェーハサイズ：200mm未満対応 ● ウェーハサイズ：300mm未満対応	
3. ALTAX 高速バンブ高さ検査装置	 ALTAX(アルタックス)	パッケージ基板向け高速高さ検査装置（高速3D検査装置） 	半導体市場 FPD市場

2023年3月期 最重点商材 WMはどこで使われるか

設計

フォトマスク
作成

回路パターン
ガラス板

半導体メーカー

前工程

基板ウエーハ上に回路を形成し、
半導体チップを作る工程

高温酸素

酸化膜

シリコン

ウエーハ表面の酸化

薄膜材料

薄膜

酸化膜

シリコン

薄膜形成

フォトレジスト

酸化膜

シリコン

フォトレジスト
塗布

光源

フォトマスク

レンズ

露光

露光部

現像

酸化膜

シリコン

露光・現像

エッチング

レジスト剥
離・洗浄

イオン注入

平坦化

ウエーハ表面検査装置 (WMシリーズ)

半導体プロセスの
“健康管理装置”



ワイヤーソー
シリコンイン
ゴット

シリコンイン
ゴット切断

研磨材
研磨パッド

ウエーハの
研磨

モールドイング

ワイヤー

ボンディング

ダイシング

ダイヤモンド
ブレード

ウエーハ検査

電極形成

半導体メーカー

後工程

半導体チップを組み立てる工程
切り分けた後、配線や樹脂封入などを行う

WMシリーズの紹介：概要

概要

ノンパターンウェーハ(ベアシリコンおよび各種成膜)のパーティクルを高感度で測定可能です。光源にViolet LD(青紫色レーザダイオード)を搭載し、パーティクル管理に最適な性能と圧倒的なコストパフォーマンスを誇る装置です。

仕様

検出感度	:	48nm@WM-10(Bare-Si)
	:	79nm@WM-7S(Bare-Si)
光源	:	Violet LD (約405nm)
走査方式	:	スパイラルスキャン

用途

ノンパターンウェーハのパーティクル測定
(Bare-Si/各種成膜)

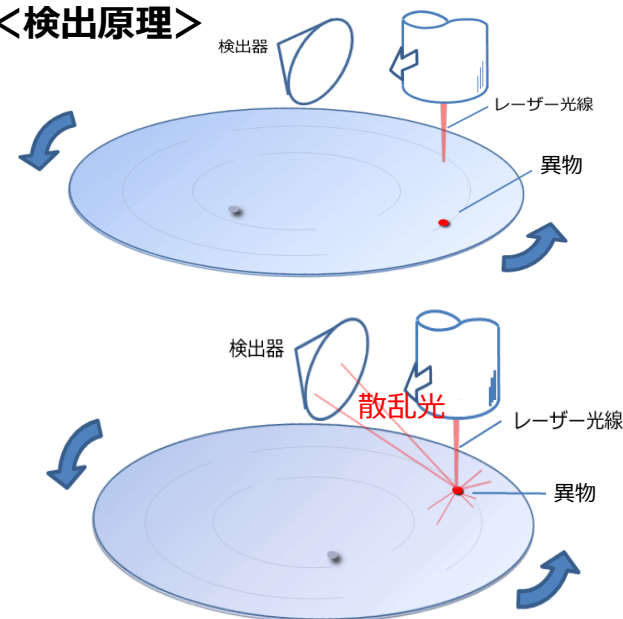


WM-7S 200mm以下



WM-10 300mm

<検出原理>



鏡面ウェーハ上の異物を高速・高感度に検出

発売以来35年間のロングセラー商品

	1986	1987	1988	1989	1990	—	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	—	2017	2018	2019	2020	2021	2022
WM-3	第1世代																							
WM-1000																								
WM-2000							第2世代																	
WM-7										第3世代（現行機）														
WM-10																								

第1世代



第2世代



第3世代（現行機）

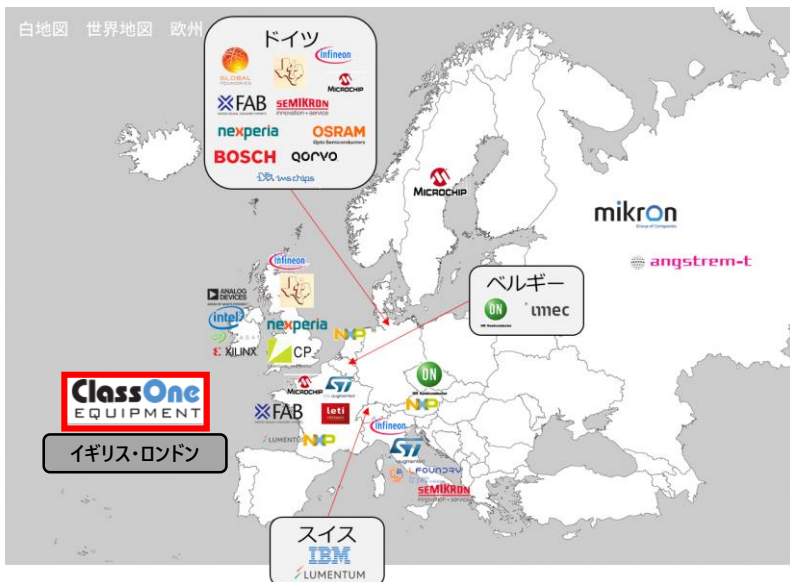


累計納入台数：約800台

**日本・台湾同様に200mm以下のプロセスラインが多い欧米への展開
Class Oneとの代理店契約締結**



中古装置をリファブし、半年間の無償保証を付保し販売しているサードパーティ
主力商品の中古物検査装置の調達が困難になり、欧米でのWM-7Sの販売を希望
アプリケーション、サービスの機能があり、アメリカの他にヨーロッパにも対応



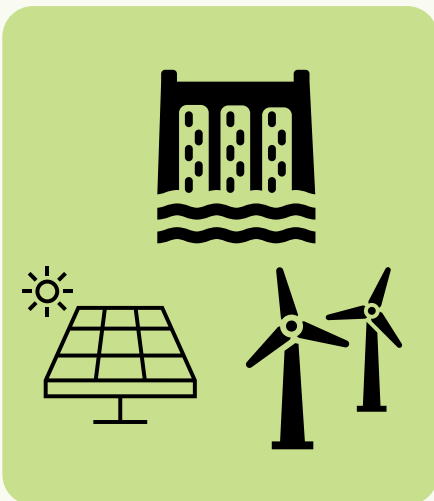
1. 部門紹介
2. 前期(2022年3月期)振り返り
3. 今期(2023年3月期)方針
- 4. トピックス**

2050年カーボンニュートラル社会の実現にむけて 信州・函館の製造工場でCO2フリー電力を導入

2022年4月19日より信州南平工場、北海道函館事業所で使用する電力の全てを
実質的に再生可能エネルギー100%の電力に切り替えました
これにより両拠点の電気使用におけるCO2排出量を実質ゼロにいたしました



再生エネルギー発電所



再エネ普及
支援

電力会社



電気
料金

タカノ株式会社



信州南平工場



函館事業所



今期は太陽光パネル新設などを予定しており、今後も気候変動問題の解決に向け
挑戦を続けます

中央アルプススカイラインジャパン2022へ協賛



2022年7月3日に長野県駒ヶ根市で開催されるトレイルランニングの大会

『中央アルプス スカイラインジャパン 2022(CENTRAL ALPS SKYLINE JAPAN 2022)』へ協賛します

こういった地域活性化の支援により、当社の認知度の向上・イメージアップといった効果を期待し、人材戦略、販売へとつなげていきたいと考えます

今後も積極的に地域とのコミュニケーションを図っていきます



中央アルプススカイラインジャパンサイトより、
許可を得て引用
<https://www.centralalps-kmpn.com/>

END



タカノ株式会社